

NOTICIAS DO BRASIL

Diretor-Interino e Proprietario: SEISAKU KUROISHI

Fundado em 1917

Redação, Administração e Oficina: Rua Caramuru, 63 — Caixa Postal, 3148 — São Paulo

N.º 2.921

ANO XXXII

SÃO PAULO, Quarta-feira 26 DE OUTUBRO DE 1949

Circula às Segundas, Quartas e Sextas

晚婚の及ぼす弊害に陥らし
めではならぬと、またお氣
に入りの春子を他家から魅
けられてはならぬと云ふ
心からであつた。

宮越は、官越で三浦の加
代子が外人の、しかも黒ん
坊とかか絡らしたと聞いて
親たるもの一剰も氣を許す
ことも出来ず、嚴しく娘の
行動を監督して行かなけれ
ばならない。十八才になつ
たので、嫁たる心掛けなど
日常茶飯事においてすら活
して聞かせたり、裁縫や厨
仕事の家事なども實地で見
習があつたら、嫁がせて
よいと痛感された。

「かア宗子、春の春子も貢
ひてがあつたら、いつまで
も家にしばらずにくれてや
つた方が好えぞ」

「私もどうう思つてゐんだ
よ」「女つ子は、一器に單相だ
から、ちつとも油斷はなら
ねえ。」女つ子は、もう月
に進むが、心がつた。娘の
もののがあるが、そのまゝに
そそのかにかけてはもう
一人前に立つたのだから、
よつぱり注意してやらね
と間違ひが起き易い。時
には宗子、こんなことは、
突然に立つた夫の質問に
不審と不安の眸を凝らす。
「うん、その、月のものだ
が!」だが、聞いておんじ
となら大丈夫です。わつと
ふ風に、大安心の色を面に
輝かす。

春子は狂ひといつて油斷は
ならぬと、お医者様が云
つてゐるから……」

女の生理的なものだ
況して我子の春子のそひこ
となら大丈夫受けたとい
ふ風に、大安心の色を面に
輝かす。

「どうか。それなら安心だ
が!」お母子は、春子のそ
の気を貢つておんかな
つてあるんだがな」と、
「どうすね。哲雄さんな
ら好い人ですしち……」

「どうだ、顧口の家に訊
察を取つたものですよ」
「どうだい、顧口の家に訊
察を取つたものですよ」

短篇

世相の蔭に (三)



人に知られず葉をのべて
春の若葉の萌えたつ中に
今日をわが世と咲きました

わだしや野に咲くれんげの
花よ

あさらめて

谷川光子

秋 水

スザノ・ブレット

何が故にわびしさか

生れ故郷を偲んでか

いゝやそりではあります

マ・イ・ラ・ボ・ファン

私は始め山に住んでゐたが
いつも雨ばかり降るので恵

いの山の小屋にうづこ

た。しゅう雨位、たつと

もう家のものがじゅうぶん

居れるようになくなりました

たけれども誠一郎さんと

大きな手を握っておなほして

ゐる中に暗くなつて来まし

た。その晩は寒い風に吹か

れ、とうとう朝になりまし

た。私たちは家をなほして

きました。そうして一生け

んまいに家を作り始めまし

た。或る日清子

さんの家の小屋にうづこ

としました。或朝早く起

きて皆んな起きて飛んで行

きました。そうして一生け